

か い ご の 学 校

カイゴミライズアカデミー

緊急時の対応に関する研修

～リスクマネジメントについて～

か い ご の 学 校

カイゴミライズアカデミー

～緊急時に大切な「報告」「判断」「知識」 「技術」の手順に沿って対応を～

緊急時の対応で重要なのは「報告」「判断」「知識」「技術」です。

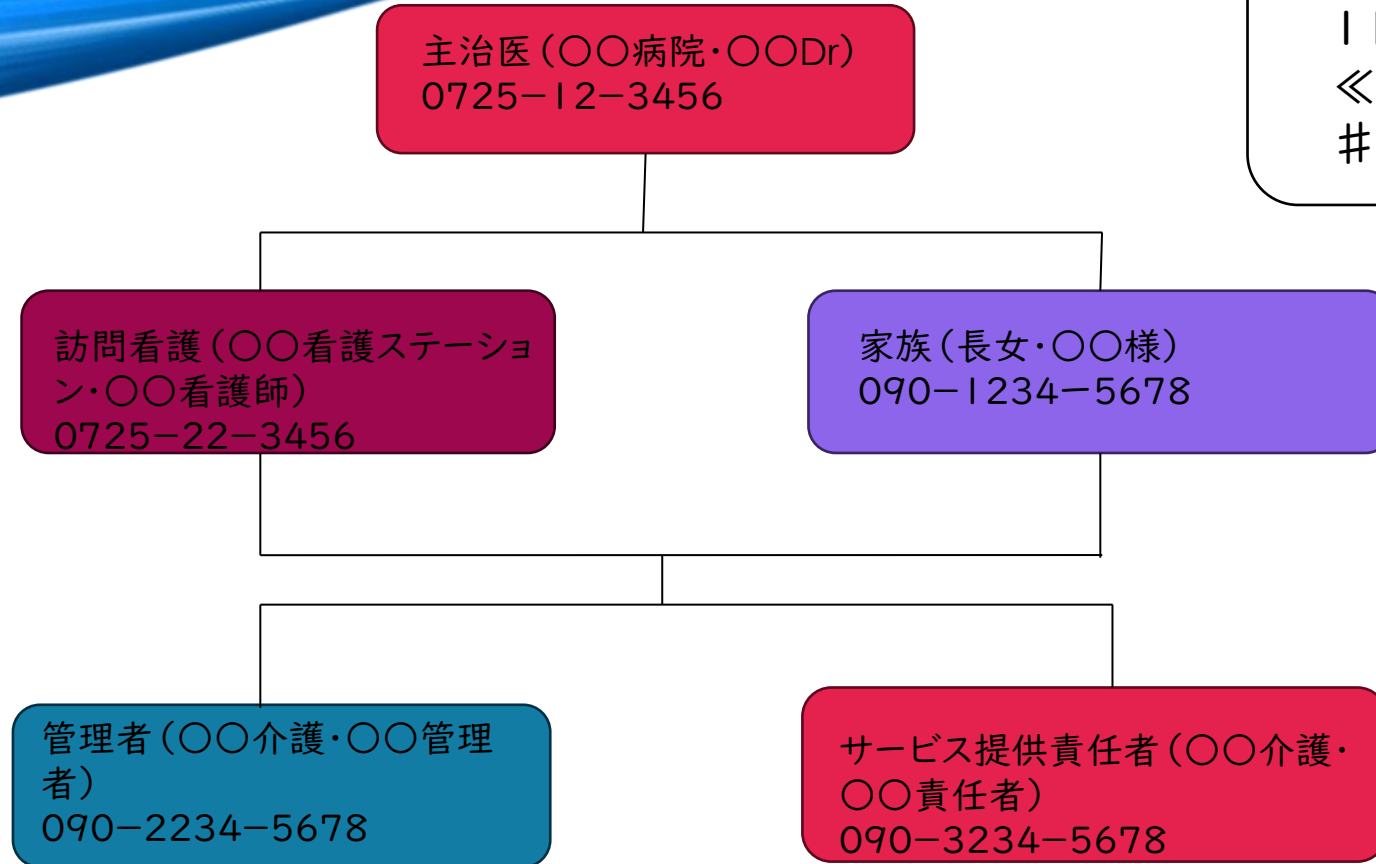
緊急事態に遭遇したらすぐに人や医療機関を呼び（「報告」）だれかが来るまでにできることを「判断」し、身につけた「知識」をもとに「技術」を提供することです。

しっかりとマニュアルを把握し頭の中でイメージしておくことが緊急時に適切な行動や判断ができることに繋がります。

下記の症状がみられた場合、「ためらわず」に救急（119）に連絡すること。

頭 部	突然の激しい頭痛・突然の高熱・立ってられない急なふらつき
顔 面	顔半分が動きにくく痺れる・笑うと半分がゆがむ ろれつが回らない・見える範囲が狭くなる・二重に見える
胸・背中・腹	突然の激痛・呼吸困難・痛む場所が移動する・血を吐く
その他	意識がない・痙攣が止まらない・片方の手足に力が入らない 冷や汗を伴う強い吐き気・物をのどに詰まらせた・大量の出血 広範囲のやけど・交通事故や強い転倒

※ 判断が難しい場合は、かかりつけ医、訪問看護にすぐに報告すること。
連絡がつかない場合は、サービス提供責任者、管理者に報告し相談すること。
また、利用者様ファイル（事務所のロッカー）には緊急連絡網があるので各自確認しておくこと。



《緊急通報》

119

《緊急安心センター事業》

#7119

[救急通報]

- ① 「119」にダイヤル
- ② 「火事ですか?救急ですか?」と尋ねられたら「救急です」と答える
- ③ 来てほしい住所をお伝えする。その他、目印になるものを把握しておく。
- ④ 利用者様の「症状」「年齢」「性別」を伝える
- ⑤ 通報者の「名前」「連絡先」をお伝えする

[救急車を待つ間に用意しておくもの]

- ① 保険証や診察券 ② 処方箋やお薬手帳 ③ 現在飲んでいるお薬

※入院になった場合には後日、家族様に衣類、携帯電話、貴重品などを持って行ってもらう。

※緊急時の通報は、パニックになってしまいがち。このマニュアルも活用して冷静かつ適切に対応すること。

☆ 救急車を呼ぶことは勇気がいります。しかし、一刻も早く処置を行うことは生命に大きくかかわります。自分で判断できない場合は、かかりつけ医、訪問看護、管理者、サービス提供責任者などの関係者に迅速に相談してください。

報告し助けが来るまでの間に「知識」をもとに「技術（応急処置）」を行います。

[呼吸を見る]

胸部と腹部の動きを見て「普段通りの呼吸」をしているか確認。

呼吸がないか、普段通りではない場合、心停止と判断し“胸骨圧迫のみ”又は“人工呼吸”を行う。

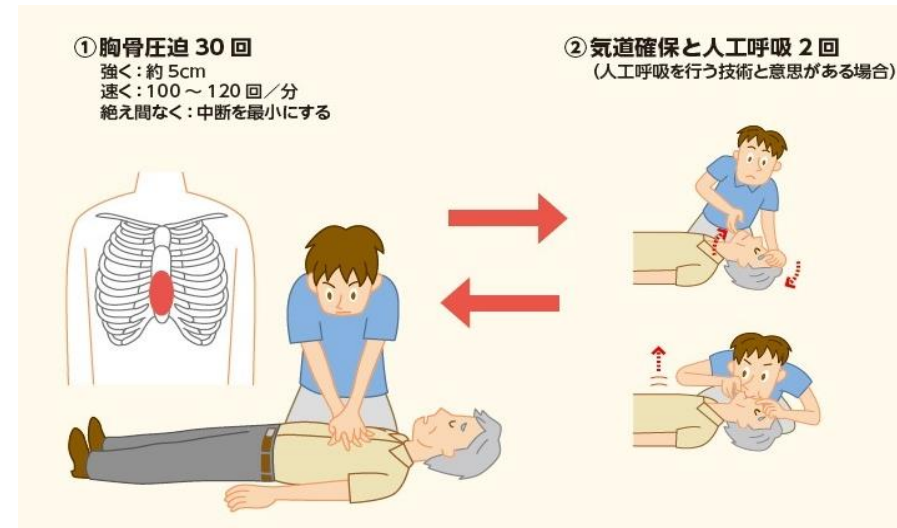


[胸骨圧迫のみ]

胸骨を1分間に100回から120回のペースで 胸部が5cm沈むぐらいの強さで圧迫する。

[人工呼吸]

- ① 胸骨圧迫30回
- ② 顎を拳上し鼻を抑え
人工呼吸1回1秒ほどで2回
- ③ 再度、胸骨圧迫を30回。
以後、①②を繰り返す



[AEDの使用]

心臓がけいれんして血液を全身に送れない状態になった場合に、電気ショックを行うことで心室細動を取り除く医療機器。

- ① 電源を入れる
- ② AEDの説明図に書かれているようにパッドを貼る
(注意点:ペースメーカーを避けて貼る・濡れている場合は拭く・貼り薬(湿布も含む)は剥がす)
- ③ コネクターを指定された場所に差し込む
- ④ 放電ボタンを押す
- ⑤ 「ショックは不要です」
というメッセージで終了



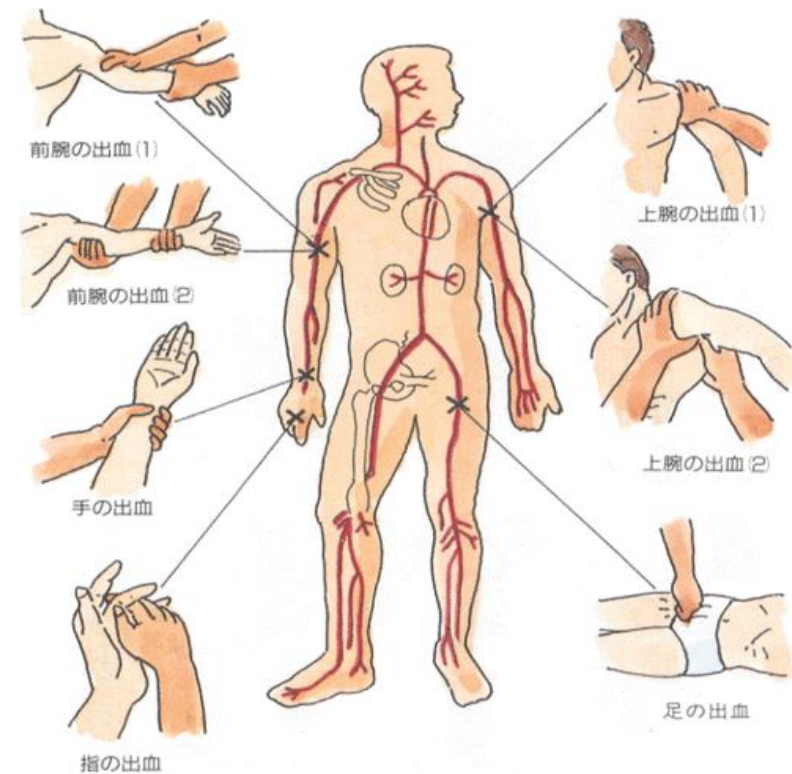
[止血]

直接圧迫法

血が出ている箇所に、ガーゼや清潔な布を当て、傷口の上から強く圧迫する。
血液からの感染症防止のためゴム手袋やビニール手袋を着用する。
ない場合は、レジ袋など防水性のあるものを使う。

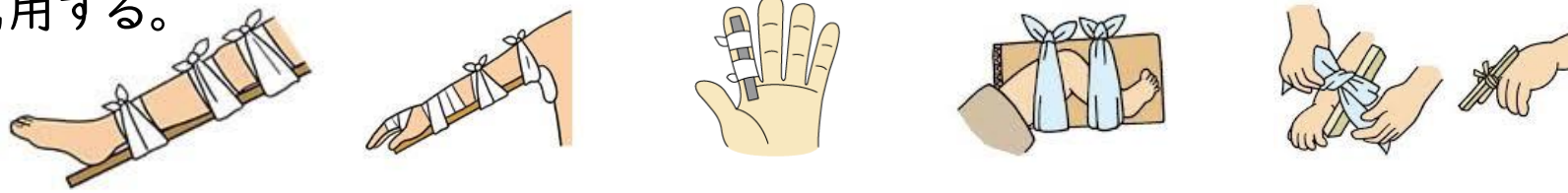
間接圧迫法

血の流れを止めるため、心臓に近い動脈を指で骨に向かって押さえる方法。
例えば、ひじから先の出血は上腕の内側中央を親指で強く押す。
脚から出血している場合は出血している脚を伸ばし、大腿骨の付け根を拳で強く押し付ける。



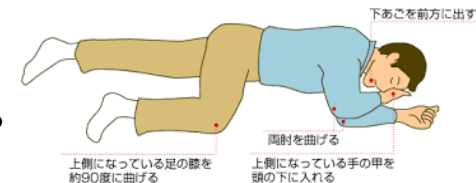
[骨折・捻挫]

骨折や捻挫の場合、痛みがある箇所を無理に動かさず、そえ木を用意し折れた骨の両側をひもなどで結び固定する。
正規のそえ木がない場合は、傘や丸めた新聞紙、指の骨折には割り箸などで代用する。



[休ませる体勢]

- ・基本は仰向けに寝かせる。もっとも安定感があり リラックスできる姿勢にする。
- ・嘔吐している場合は吐いたものがのどに詰まらないように顔を横向きにしてうつぶせに寝かせる。
- ・呼吸はしているものの意識がない人は横向きに寝かせる。
- ・熱中症や貧血、出血性のショックは、脚を高くすること。
脚が15～30cm上がる ように脚元にクッションを置き
仰向けに寝かせる。



●ショック体位



15～30cm

まとめ

緊急時の対応を知っておくことで、自分の命、大切な家族や友人の命、また、知らない人を助けることができます。

また危険というのは常に隣りあわせです。

いつ事故にあうのか？また自分の不注意で相手をけがさせてしまうといった恐れもあります。

このようなことをしっかりと現実とし受け止め今回の研修で学んだことを活かしていただきたいと思います。

怪我したときや急な病気の発症には迅速な対応が大事です。